二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

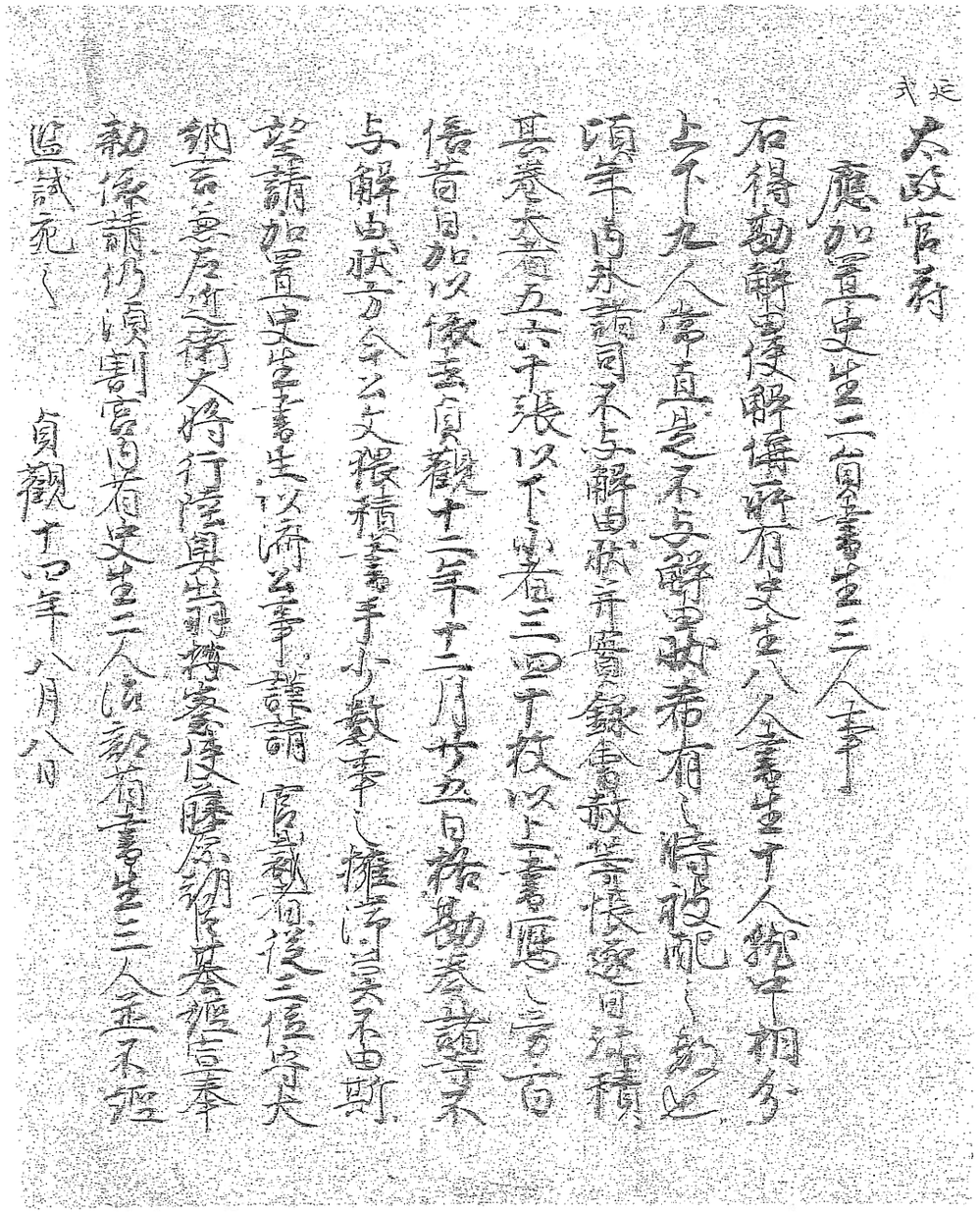
【博士後期課程】　専門科目　日本史学　コース　※解答は別紙（縦・横　書）

①

［一］（古代）［二］（中世）［三］（近世）［四］（近・現代）のうち、自分の専攻する時代の問題を選んで解答せよ。ただし、複数の時代を選ぶことはできない。

問［一］（古代）次の史料について、①常用漢字を用いて全文を読み下し、②口語訳をした上で、③内容について知ることを簡潔に述べよ。

史料



延喜式　太政官符

應加置史生二員事　三人事

右得勘解由使解�ｶ有史生八人生徒十人雖年相多
上下九人常直生不足解由狀希有之時被配之勘
須年月外請司不与解由狀并實錄雖數帳逐日流積
其卷太至五六千張以下少者三四千枚以上書寫之役百
倍昔日加以依去貞觀十二年十二月廿五日格勘奏諸司未
与解由狀方今公文擬積事多少數事之擬許之不由斯
望請加置史生書生以濟公事謹請官裁伏後三位守大
納言兼左近衛大將行陸奥出羽按察使藤原朝臣基經宣奉
勅依請仍須割官員者史生三人法令所有書生三人並不經
選試充　貞觀十四年八月八日

二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本史学コース　※解答は別紙（縦・横　書）

②

問［二］（中世）（A）・（B）・（C）三点の史料について設問に解答せよ。

〔設問一〕①（A）の釈文を別紙解答用紙に記せ。

②（A）の史料を一つの素材とし、鎌倉時代後期の幕府と御家人について四〇〇字程度で論述せよ。

（A）

二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

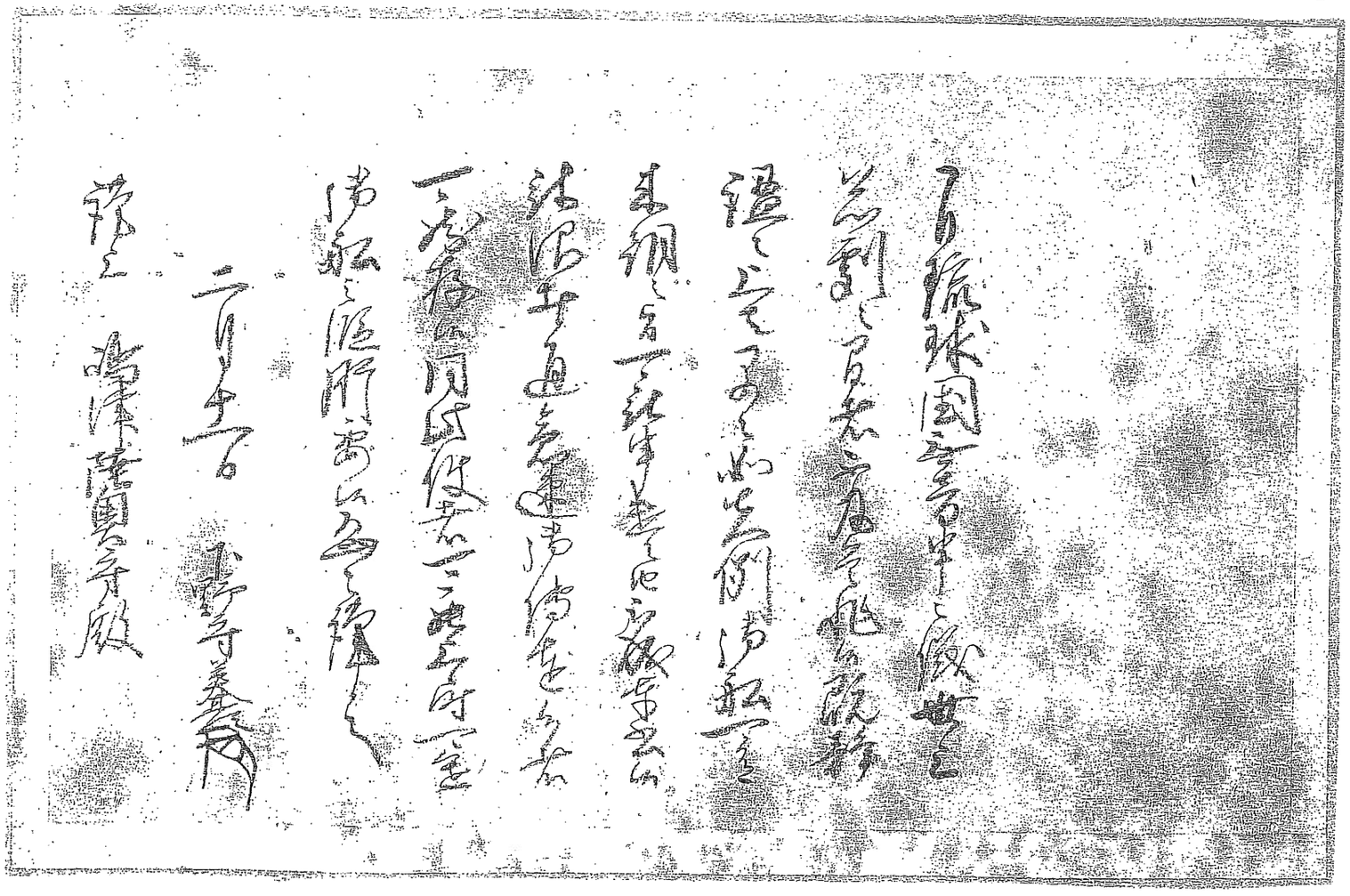
【博士後期課程】　専門科目　日本史学　コース　※解答は別紙（縦・横　書）

〔設問二〕(i)(B)の釈文を記せ。

(ii)(B)の内容を二〇〇字程度で記せ。

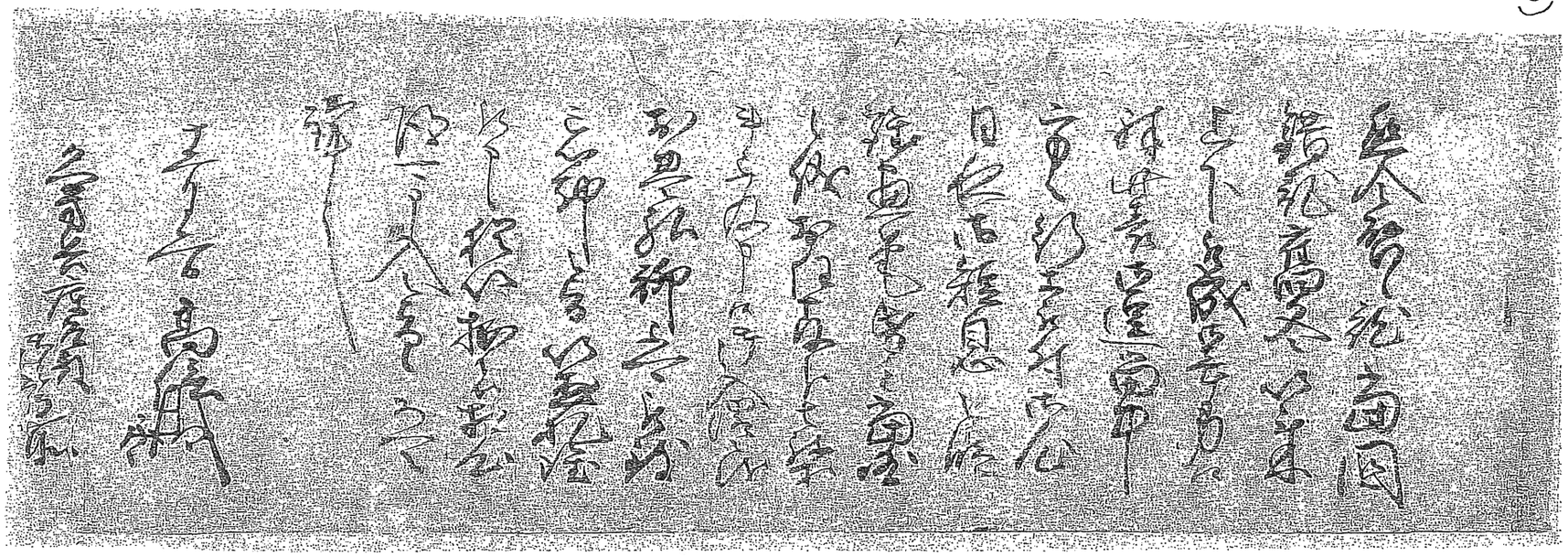
なお、(B)は文明十二年発給と推定される。

(B)



〔設問三〕(c)の釈文を記せ。
なお、(c)は元亀元年発給と推定される。

(c)



二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本史学コース　※解答は別紙（縦・横　書）

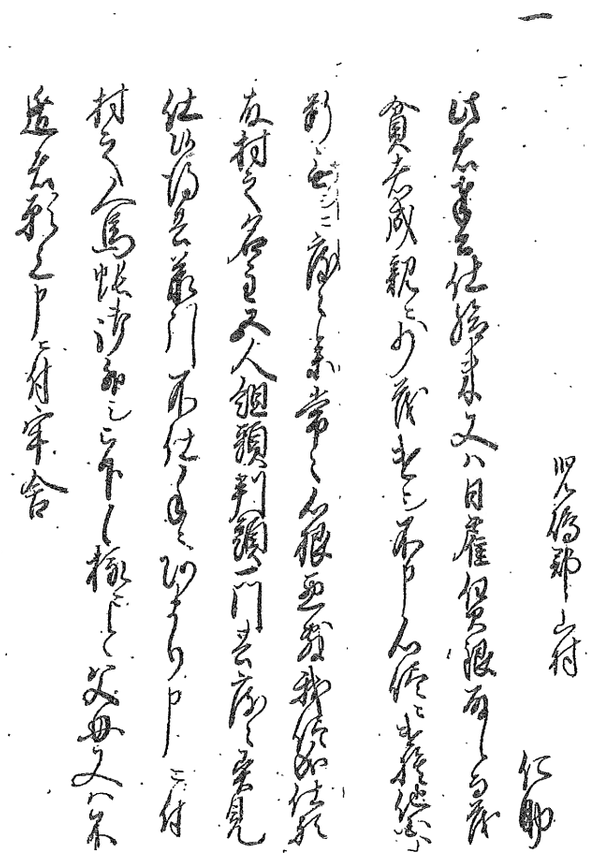
⑤

問三（近世）　A・B二問に答えよ。

近世A　左の史料は、大猷院（三代将軍徳川家光）の五十回忌法要につき、岡山藩で元禄十三年に牢舎を赦免された者の一人について、記したものである。これを読んで設問に答えよ。

（1）書き下し文にしなさい。

（2）江戸時代の村社会における秩序形成について、史料も参考にしながら論じなさい。



二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

『博士後期課程』　専門科目　日本史学コース　※解答は別紙（縦・横　書）

近世B　左の史料は、貞享二年に肥後国神川村の百姓らが熊本藩庁に宛てた体裁による報告書である。これを読んで設問に答えよ。

（1）傍線部①を現代語訳せよ。ただし、固有名詞に留意する必要はない。

（2）傍線部①の事態が、その後どのように展開したかに留意し、本文を要約せよ。

覚

一唐船壱艘南蛮船（余人詳）但嶮合ゆえ難渡海船ふかせ出ず候

①右之唐船今度長崎へ流寄候処、琉球へ回

七度漂流仕候ゆえ、遠路に付、琉球へ入港仕候

悪打波ゆえ出帆仕候ハ、難渡、右之唐人書を

琉球へ入港ニ付、琉球へ入港ニ付、十八日薩摩

へ回船、十日肥後へ着、日和次第、肥後

出帆仕候ハ、琉球へ入港ニ付、薩摩

へ入港ニ付、唐人ハ肥後へ送り申候

右之通、薩摩へ出帆ニ付、肥後へ送り申候

覚書ニ、如上

貞享弐年巳ノ十二月廿二日

神川村庄屋　吉三郎（印）

山鹿喜兵衛殿

小川豊前殿

高田十九郎殿

内藤殿

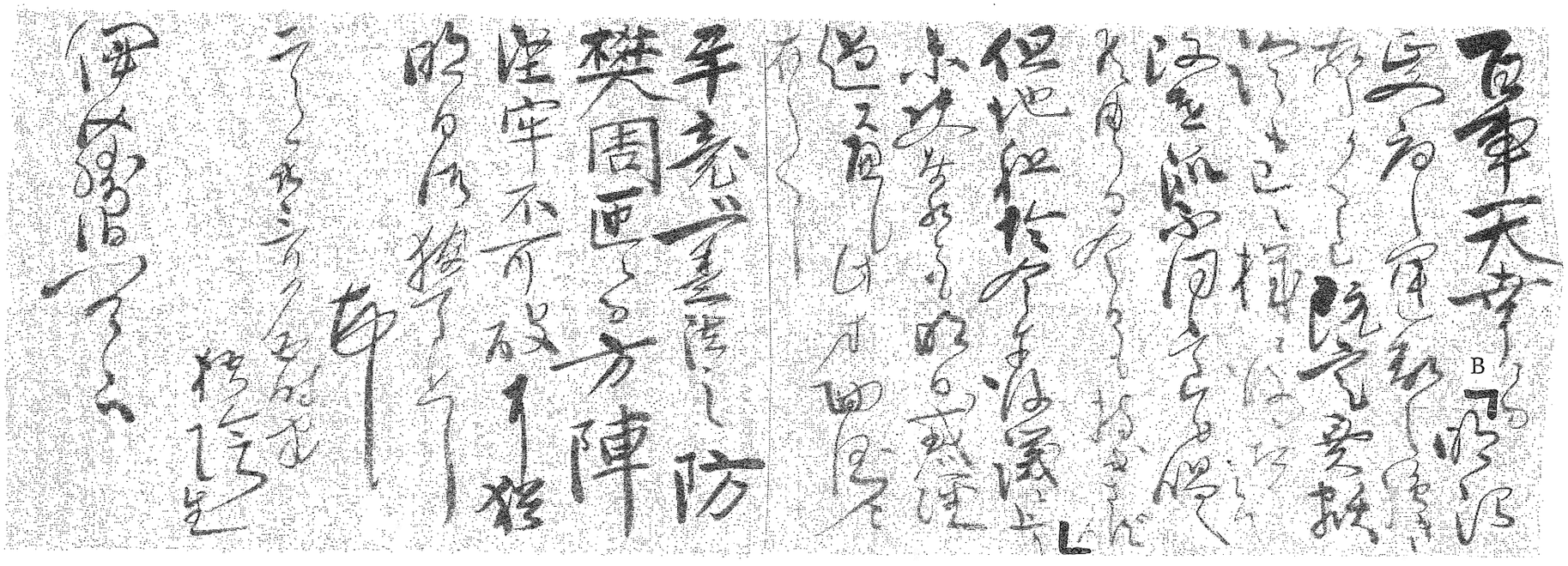
6

問題［四］（近・現代）次のA・B二問に答えよ。

A　次の史料を読み、設問に答えよ。

A

B



二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本史学　コース　※解答は別紙（縦・横　書）

(8)

〔設問〕

一　この書翰は何年のものか。西暦で記せ。

二　括弧Aの箇所を楷書で記せ。

三　傍線aについて知るところを五〇字程度で述べよ。

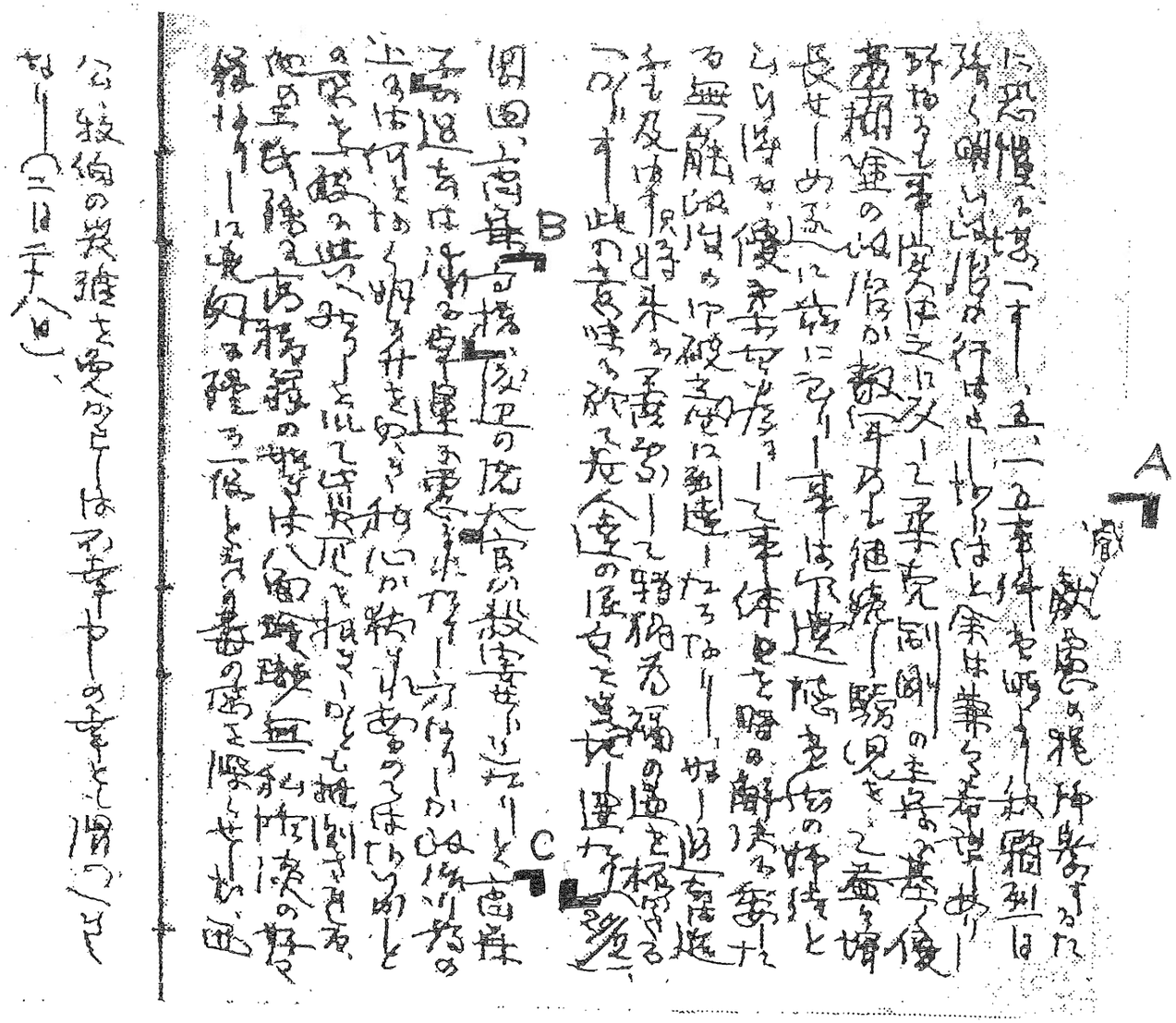
四　書翰の差出人について知るところを五〇字程度で述べよ。

五　傍線bのこの前後の行動について、書翰の内容も踏まえて一〇〇字程度で述べよ。

六　括弧Bの箇所を楷書で記せ。

七　書翰の受取人について知るところを一〇〇字程度で述べよ。

B　次の史料を読み、設問に答えよ。



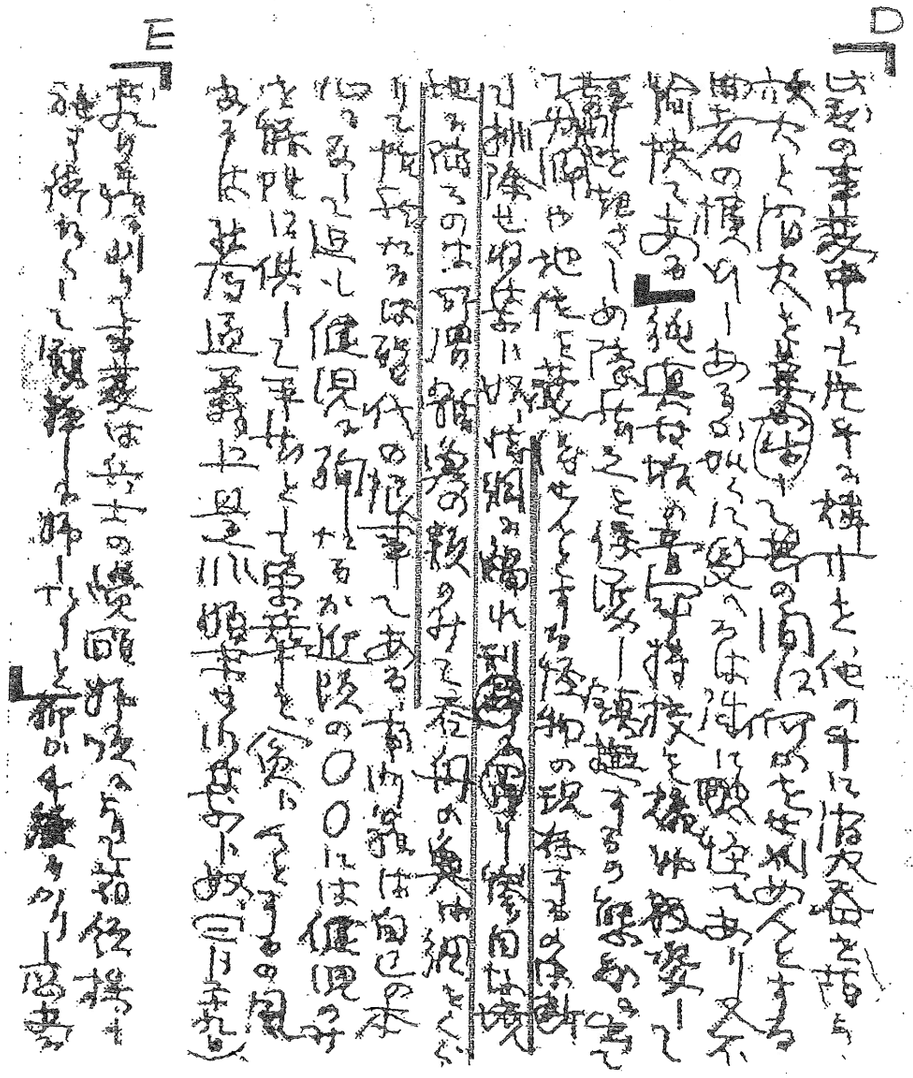
A

B

C

二〇一八年度　早稲田大学大学院文学研究科　入学試験問題

【博士後期課程】　専門科目　日本史学　コース　※解答は別紙（縦・横　書）



〔設問〕

一　括弧Aの箇所を楷書で記せ。

二　括弧Bの人物による一九三〇年代の経済政策を二〇〇字程度で記せ。

三　括弧Cの人物について知るところを二〇〇字程度で記せ。

四　括弧Dの箇所を楷書で記せ。

五　傍線部の意味について二〇〇字程度で記せ。

六　括弧Eの箇所を楷書で記せ。

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

——ここから記入すること——

日本史学

※選択分野に○を
記入すること

・古代
・中世
・近世
・近現代

総点

（裏へ続く）

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

（次頁へ続く）

（裏面へ）

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

ここから記入すること

（裏へ続く）

（次頁〈続〉）

――これより先の余白には親族に記入しないこと――

——ここから記入すること——

（裏へ続く）

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——